

人類の身體に疾病の起る所以は、固より遺傳性に屬するもの無きに非らずと雖も、多くは平素個人衛生と公衆衛生に於て、缺如する所あるに原因せざるは無し。然れども、衛生の進歩如何は、個人の智識と社會文明の程度と相俟たざる可からざるが故に、到底急速に之を發達せしめ得べきに非らざるなり。人も亦天性動物の一なれば、其の智識と社會文明の未だ發達せざる間は、疾病若しくは死亡如何は、一に周圍の氣候、地味、水質等に因て制せらるゝに至るも亦已むべからざる所とす。今新疆内に住居する民人の生活狀態及其の疾病并に風土との關係を示さば概ね左の如し。

生活狀態

滿漢人の衣食住は殆んど韓國人に似て、甚だ不潔なること、何人も既に之を知らん又山野水草を逐ふて游牧する、蒙古族、哈薩克等の、野蠻蒙昧なるは、擧て論するの必要を見ず。予の此に示さんと欲するは、唯土著民の狀態なりとす。

南路土著の纏頭回の衣食住を觀るに、彼等の家屋は、中央亞細亞風の陰氣なる構造にて、屋内は直に土間に毛氈を敷きて起臥す。食物は主に鳥獸肉及穀物等を用ゆるも、豚は不潔動物として食せず。愛食せるは「グルチアージ」と稱する、飯と「シヨ